
遊戯王 X D E

ドラゴン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戲王XDE

【ZPDF】

Z2183Z

【作者名】

ドラン

【あらすじ】

「貴様にこの力が使いこなせるか」その声が全ての始まりだった。ひょんなことから「・NO・」を集めることになってしまった主人公は仲間と協力しながら「・NO・」集めていく。

プロローグ（前書き）

初投稿です。ですが自分は、文才の才能がないので下手な文かもしれませんがよかつたら見てください。

プロローグ

プロローグ

突如、学校の放課後を告げるチャイムが鳴り響いた。

龍驥「さあーて学校も終わつたことだし早く帰つて『テュエルやるつぜ』」

優「はいはいわかりました。どうせいつもの場所に集合でしょ」

龍驥「わかつてんじやん」

いつもの場所と言つのは、駅前の広場にある「テュエルスペース」である。

龍驥「ほんじやーはよここよ

優「はいはい」

——駅前広場——

龍驥「おしゃー今日は誰と『テュエル』しようかな

優「ほどほどにしろよ」

龍驥「でも最近なかなか皆『テュエル』してくれないんだよな

優「当たり前だここらじやお前は、滅茶苦茶強いんだからよつぽどの覚悟がないと『テュエル』はしないだろ」

その時、広場中に男の声が響き渡つた。

?「あああああああ

龍驥「なんだ向こうの方からだ行つてみよう

優「またそんなに急ぐな

声の聞こえたほうに走つていくと男が倒れていた。

龍驥「一体何が

プロローグ（後書き）

どうでしたか。デュエルまで持ち込めませんでしたが次回持ち込みますので。よろしくお願いします。

キャラ紹介（前書き）

今回は、プロローグに出てきた龍驕と優の説明についてかこつと思
います。

キャラ紹介

キャラ紹介

主人公

桂木 龍驥 かつらぎ りょうた

デッキ・星座デッキ

この話の主人公でありとても明るく誰とでも友達となれる性格です。黄道十二星座がモチーフになつたデッキ、星座デッキを使う。ここではなのしれたデュエリストでその実力はプロ級である。ひょんなことから「-NO-」を手に入れてしまい「-NO-」をかけた戦いに参加することになる。

使用する「-NO-」は、「NO.-16時間龍タイム・オーバー・デリケン」

楠 優 くすのき ゆう

デッキ・ガイアデッキ

龍驥とは幼なじみでよくデュエルをしている。地属性を主体としたデッキでそのデッキの力は不特定。龍驥と一緒にデュエルをしているうちに龍驥には、及ばないがその実力はプロ級である。

キャラ紹介（後書き）

なんか説明が短くなりましたがこれでわかつたでしょうか。わからなかつたらすいません。

第1話 決闘（前書き）

がんばって書をまとめてよかつたらみてください。

第1話 決闘

声の聞こえた方にいつてみると男が倒れたいた。

龍驥「一体何が」

？「この男対したことなかつたな、だが「・ニ・オ・」はいただいていくぞ」

その男が何かのカードを倒れている男からとつていく。

？「さてミシシヨンも終わつたことだし帰るか」

龍驥「待て、その人に何をした」

？「おまえが知つてどうする、てかおまえだれだ」

龍驥「俺は、桂木 龍驥」

優「何おまえは名乗つてんだよ」

龍驥「うるせえ優、そういううおまえこそ誰だよ」

？「名乗るものでもないじやあなあ」

龍驥「待てデュエルだ俺が勝つたら全て教えろ」

？「ああん、なんだよその眼はむかつくなあ、いいぞやつてやるうじやねえか」

龍驥「そつこなくちや」

優「また、龍驥冷静になれそいつとデュエルしたらどうなるかわかんねえぞ」

龍驥「そんなことわかつてゐるだが」こいつと戦いてえんだ」

優「わかつたよ。おまえは自分で言い出したことは、じつはするやつだからなあ。絶対勝てよ」

龍驥「まかせとけ」

？「準備はいいか始めるぞ」

龍驥・？「決闘 デュエル」

第1話 決闘（後書き）

やつじテコノルが始まります次はやつじテコノルです。

第2話 混戦（前書き）

やつとトコノルが始まりました。

第2話 混戦

龍驥・？「決闘 デュエル」

龍驥「俺の先攻ドロー

俺は、モンスターをセット

カードを一枚伏せてターンエンド」

？「俺のターンドロー

俺はファンタム・ビーストを召喚

バトルフェイズ ファントム・ビーストでセットモンスターを

攻撃」

龍驥「セットモンスターは十二星座 バルゴ

このカードが破壊されたときデッキから十二星座と名のついたモンスター

1体を手札に加える事ができる

この効果でデッキから十二星座 キャンサーを手札に加える

？「その程度かカードを2枚伏せてターンエンド」

龍驥 手札4枚

伏せカード2枚

手札3枚

場 ファントム・ビースト

伏せカード2枚

龍驥「なんだと俺のターンドロー

十二星座 キャンサーを召喚

バトルフェイズ 十二星座 キャンサーでファンタム・ビー

ストに攻撃」

十二星座 キャンサー 1600×5ファンタム・ビースト 14

00

？ライフ4000 3800

龍驥「十二星座 キャンサーは一度のバトルフェイズ中に2回攻撃

できる

キャンサーで「一回目攻撃プレーヤーにダイレクトアタック」
優「よし、この攻撃が通れば大ダメージだ」

第2話 混戦（後書き）

なんか中途半端な場所でおわったしました

第3話 - OZ - (前書き)

今回やつと・ZOO・が登場します

龍驥「キャンサー・ダイレクトアタック」

？「そう、うまくいくとおもうなよ 畏カード オープンティメンションウォールこの効果でおまえがダメージを受けてもらひ」

龍驥ライフ4000 2400

龍驥「この位のダメージぐらい平気だ ターンエンド」

？「そろそろ本気をだすか俺のターンドロー ファントム・スライムを召喚

効果発動1ターンに1度デッキから同名カードを特殊召喚できる
「かいファントム・スライム」

優「同じレベルのモンスターが2体来るのか」

？「いくぜレベル3のファンタム・スライム2体をオーバーレイ
2体のモンスター 1でオーバーレイネットワークを構築 エクシ
ーズ召喚

来宾NO - 10百銃王 ガトリングビースト」

龍驥「NO . なんだあのカード」

？「百銃王 ガトリングビーストの効果発動 このカードのエクシ
ーズ素材を一つ 取り除き相手フィールドのカードと相手の墓地
のカードの数×100ダメージを 与える つまり400ポイント
トのダメージを与える」

龍驥ライフ2400 2000

？「バトルフェイズ 百銃王ガトリングビーストでキャンサーに攻
撃」

龍驥「畏カードオープン ハーフスター」

終わらない

第4話 力（前書き）

なんか全然話が進みません

第4話 力

龍驥「農カードオープン ハーフスター ここのカードは相手モンスター攻撃時発動

相手モンスターの攻撃力を半分にする

NO.-16百銃王 ガトリングビースト 10000VS十一星座

キャンサー 1600

? ライフ3800 3200

龍驥「よしこれで - NOを倒したぜ案外楽勝

? 「勝手に喜んでろ」

龍驥「何いつてんだお前のエースモンスターが破壊せれたんだぞ」

? 「そう見えるならそれでいい」

龍驥「ええ」

奴の場を見るとそこには倒したはずの - NOが

龍驥「おこづかうことだよそのモンスターは、倒したはずじゃ」

? 「あまい - NOは、NOと名のついたモンスターじゃなければ破壊できない」

龍驥「チート効果も対外にしろ」

? 「まあいいコレでターンエンドだ」

龍驥「俺のターンドロー モンスターをセレクト キャンサーを守備表示へ変更 カードを一枚伏せてターンエンド」

? 「何も出来ぬようだな俺のターンドロー ここの勝負俺の勝ちだ

手札から魔法カードファンタムチェンジ発動

この効果により相手モンスターの表示形式を全て変更する。

さらに百銃王 ガトリングビーストの効果発動

エクシーズ素材を取り除き相手のフィールドと相手の墓地のカードの数×100ポイントのダメージを「える」

龍驥ライフ2000 1600

? 「それではバトルフェイズガトリングビーストで十一星座 カプ

リコンへ攻撃 ラストガトリング

龍驕「戦力カードオープン 電熱波 手札を任意の数捨てて捨てた枚数かける100ポイント攻撃力をアップする」

十一星座力プリコン100 500

百銃王 ガトリングビースト 20000VS十一星座 カプリコン
500

龍驕ライフ1600 100

龍驕「このとき力プリコンの効果によりデッキから十一星座 ジュミニーを手札に」

？「命拾いしたなカードを一枚伏せてターンコンド」

龍驕「ここまでなのか」

？「貴様にこの力が使いこなせるか」

龍驕「誰だ」

そのとき俺の中に何がが入つてきた気がした

龍驕「俺のターンドロー 十一星座ジュミニーを召喚 ジュミニーの能力でデッキからレベル4光属性モンスターを特殊召喚できる こい十一星座タウロス」

？「さあ私を呼べ」

龍驕「なんだエクストラがこのカードは、 - NO何でもいまはこれしかねえ

レベル4のジュミニーとタウロスでオーバーレイ 一体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築エクシーズ召喚 出でよNO - 16 時間龍タイムオーバードラゴン」

？「何 - NOだと」

龍驕「コレが俺の力いくぞタイムオーバードラゴンの効果発動」

第4話 力（後書き）

なんか疲れました。

今回やつと龍驥の -NOを出せました。

第5話 - NO・実力

龍驅「タイムオーバードラゴン効果発動　このカードのエクシーズ素材一つ取り除きこのカードと相手フィールドのすべてのモンスターをゲームから除外する」

？「なに」

龍驅「そしてカード一枚伏せてターンエンド」

？「少しお前をあまく見すぎたようだ改めて名前は」

龍驅「桂木 龍驅」

蓮「俺は林道 蓮　俺のターンドロー　ターンエンド」

龍驅「俺のターンドロー　この瞬間タイムオーバードラゴンの効果で除外したモンスターをフィールドに戻す　リバースカードオープ　ン　再度能力　能力により墓地のモンスター1体の効果を得る　俺は星座使い　アンドロメダの効果を得る　墓地罠カード怒りの賞効果発動　このカードを除外し自分フィールド上のモンスターの攻撃力に守備力を加える　十二星座　サジタリウスを召喚　アンドロメダの効果を得たタイムオーバードラゴンの効果発動　自分フィールド上の星座とのついたモンスターの攻撃力分アップし相手のカード効果をこのターン受けない」

時間龍　タイムオーバードラゴン　2500　4500　6000

蓮「攻撃力6000」

龍驅「これでとどめだ時間龍タイムオーバードラゴンで百鍊王　ガトリングビーーストに攻撃　タイムゲート」

蓮「くそ——」

蓮ライフ3800　0

優「龍驅のやつ勝ちやがった」

龍驅「よつしゃー」

その時、俺のエクストラが光った

龍驅「このカードは」

そこには、NO-10百銃王 ガトリングビーストがあった

龍驕「何故俺のエクストラに、ガトリングビーストが」

蓮「その理由は、-NOをデュエル中使いもし相手が-NOを持っていて負ければそのカードは奪われる

そして-NOが0になつた時点でその者は消える」

龍驕「そんな ジャあ何でお前は消えてないんだよ」

蓮「それは、俺がまだ-NOを持っているからだ」

そう言うと蓮は、エクストラからカードを取り出した

蓮「NO-23 空間龍 スペースオーバードラゴンこれが俺の-NO

龍驕「それじゃあさつきの男は?」

蓮「やはりマダ持つてやがったか-NOを

ミッショーン失敗かそれじやあな龍驕次は負けないからな

そういうと蓮は、姿を消していた。

龍驕「林道 蓮かあ 強い相手だつたな」

それよりあの時の声なんだつたんだろう

優「龍驕帰るぞ 今日はいろいろありすぎて疲れた」

龍驕「おひ」

そうして俺たちは、家に帰つた。

――次の方――

龍驕「どうこうことだよ」

そこには、倒れた家族

龍驕「母さん 父さん 秀どうなつてんだよ」

ふと周りを見るとカードが1枚落ちていた。

龍驕「NO-50 ハーフエンドルーラーなんでこんなカードが

父さん「りょ・・・う・だ」

龍驕「父さん.」

父さん「そのカードを持って早く逃げろ」

龍驕「父さんどうこうことだよ」

父さん「奴らが来る前に早く」

といつと父さんは、俺を外へ追い出した

龍驥「どうこうことだよ」

父さん「早くいけ」

そういうわけで事の重大さにさすいた俺は夢中で走った。

第5話 - NO・実力（後書き）

なんかシリアスな展開になりました。

第6話 希望と絶望（前編）

今回、父ちゃんサイドの視点があります。
ちなみに父親の名前は、桂木 真です。

第6話 希望と絶望

桂木 真 田線

龍驥が出て行つてすぐここと

真「やつと龍驥の奴いつたかさてと早ごとにこいつらを倒さないと

ひなみに聞くがお前らは誰だ」

?「・・・・・」

真「答えるわけないかそれじゃあコノドコノルをつけよつか

?「・・・・・」

そうすると相手もデュエルディスクを出した

真・?「決闘 デュエル」

——10分後——

真「やつとこんなものか」

そこにはさつきの奴らが倒れている。

真「大丈夫だつたか秀 母さん」

母さん・秀「大丈夫」

真「あとは龍驥が上手くやれば

桂木 龍驥 田線

龍驥「どうこうことだつたんだ」

そういうながら走つていると。

?「龍驥——」

優「どうしたんだよ

そこには優がいた。

龍驥「優なんでお前がここにいるんだよ」

優「なんかむな騒ぎがしてそれより龍驥に何をやつてているんだよ

龍驥「それが

——事情説明中——

優「そんな事があったんだ でそのカードでいつのまに?」

龍驥「このカードなんだけど」

そういうつて俺は優にカードを渡した

優「んん」

龍驥「どうしたんだよ」

優「なんか後ろに紙がついてる」

そういうと優は俺に紙を渡した来た

龍驥「これはどうこうことだ」

第6話 希望と絶望（後書き）

自分もこの先の展開を考えていません

ヘルプ

第7話 陰謀

龍驥「どうじうことだ」

その紙に書かれていたことは、「 - NOを全て集めて来いそうすれば世界は救われる」

龍驥「なんだよこの文意味が分からぬ」

俺は優にその紙を渡すと

優「まあ - NOを集めろってことでしょ」

龍驥「まあ確かにそうだけど」

その時、謎の男が俺たちの前に現れた

？「貴様か蓮を倒したといふのは」

龍驥「だれだ」

？「俺は - NOを集めるものとして貴様を倒しに来た」

そういうとその男はデュエルディスクを出してきた

？「デュエルだ龍驥」

龍驥「やつてやううじやないか」

優「また龍驥ここは俺にやらせり」

龍驥「何いつてんだよお前 - NOを回収するんだぞ俺がやらなくてどうする」

優「それなら大丈夫だ」

そういうと優はエクストラからカードを取り出した。

龍驥「そのカードは - NO何でお前が」

優「ちよつとなと言つわけだ別に俺でもいいだろ」

？「構わないいすれにしろどちらも倒すのだから」

優「とりあえず聞いておく名前は」

？「名前を聞きたいなら自分から名乗るのが筋だろ」

優「楠 優だ」

翔太「久上院 翔太 それじゃあ始めよつか」

始まるお互いの命と - NOをかけた戦いが

優・翔太「決闘
デュエル」

第7話 隠謀（後書き）

まさかの優も・NOの使い手でした次回は、キャラ紹介といきたいです。

キャラ紹介2（前書き）

今回は、敵と出でた・この辺りにて書きたいと思ひます。

キャラ紹介2

キャラ紹介

林道 蓮 りんどう れん 年齢15

デッキ：ファンタムデッキ

この話のライバル的な存在の敵です。

その実力は、プロ以上の実力を持つ。

龍驍に負けたことにより -NOを一枚失つものの自分の使う本当の

-NOをまだ持っていた。

幻影・混沌などを主体としたデッキ。

久上院 翔太 くじょういん しょうた 年齢15

デッキ：サイクロンデッキ

-NOを集めている少年林道 蓮とわ何らかのつながりがあるよう

だがいま不明

風属性を主体としたデッキを使っている。

登場した -NO

NO-16 時間龍 タイムオーバードラゴン 光

ドラゴン族 ランク4 ATK／2500 DEF／2000

レベル4モンスター ×2

このカードのエクシーズ素材を取り除きこのカードと全ての相手モンスターをゲームから除外する。

そのモンスターは、次の自分のスタンバイフェイズにフィールドに戻す。

その時このカードのエクシーズ素材が残っていた場合そのカードの墓地からこのカードの下におく。

NO-10百銃王 ガトリングビースト 光

獣族 ランク3 ATK/2000 DEF/3000

レベル3モンスター ×2

1ターンに1度このカードのエクシーズ素材を1つ取り除き発動。
相手のフィールド上のカードと相手の墓地のカードの数×100ポイントのダメージを与える。

第8話 決闘2（前書き）

今回もPSPからの投稿なので短いです。

第8話 決闘2

優・翔太「決闘 デュエル」

優「俺の先攻ドロー 地獣グランを召喚 地獣グランの効果発動効果により手札のカードを1枚魔法・罠ゾーンにセットするさらにカードを1枚伏せてターンエンド」

翔太「俺のターンドロー サイクロンレーターを召喚

バトルフェイズサイクロンレーターで地獣グランに攻撃」

サイクロンレーター 1600 VS 地獣グラン 1500

優ライフ4000 3800

優「地獣グランの効果発動このカードが破壊されたときフィールド場の魔法・罠ゾーンにあるカードを1枚破壊する このカードの効果で俺のフィールド場の伏せカードを破壊する 破壊されたカード地獣フォースの効果でセットされたこのカードが破壊された時、特殊召喚できる 来い地獣フォース」

翔太「なに！ いつの間にそんなカードを第一モンスターを魔法・罠ゾーンに伏せるなんてできるわけがない」

優「それができるんだよ。いやできたらんだよこのカードを使えば」

「そう言うと優は、地獣グランを見せてきた。

翔太「そう言えばあの時 まいいいカードを1枚伏せてターンエン

ド」

第8話 決闘2（後書き）

優	ライフ	3800	手札	3枚
場	地獣フォース	伏せカード	1枚	
翔太	ライフ	4000	手札	4枚
場	サイクロンレーター	伏せカード	1枚	

翔太「そう言えばあの時、まあいいカードを一枚伏せてターンエン
ド」

龍驥「優の奴あんな戦術もできたのかよ！」

優「俺のターンドロー、掘削員Aを召喚、掘削員Aの効果発動この
カードの召喚時、自分フィールドにこのカード以外の 地属性が
存在する場合[デッキから、掘削員Bを特殊召喚できる。現れる、掘

削員B」

龍驥「同じレベルのモンスターが2体やるのか優！」

優「俺は、レベル4の掘削員AとBをオーバーレイ2体のモンスター
でオーバーレイネットワークを構築

エクシーズ召喚 現れよ、地底龍ガイアドラグーン」

翔太「なに - NOじゃない。何故 - NOを出さない」

優「まあそうあわてるな、次期に - NOは、出すから

バトルフェイズ 地底龍ガイアドラグーンでサイクロンレーター
ーを攻撃」

翔太「あまい、罠カードオープン 大突風

効果により攻撃してきたモンスターを手札に戻す。」

優「そうはさせない、地底龍ガイアドラグーンの効果発動
効果によりこのカードのエクシーズ素材を1つ取り除き、この
カードを裏側守備表示変更する」

翔太「ちい逃げられたか」

優「カードを一枚伏せてターンエンド」

龍驥「あのモンスターあんな効果があつたんだ」

翔太「調子に乗るなよ、俺のターンドロー、サイクロンレーターを
召喚

いくぜレベル3のサイクロンレーター2体でオーバーレイ2

体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築

エクシーズ召喚 いでよ、NO - 34 新風鳥 月花

優「出てきたか - NO」

翔太「新風鳥 月花の効果発動

このカードのエクシーズ素材を1つ取り除き、フィールド場のカードを2枚まで破壊又は手札に戻す

この効果で伏せカード2枚を破壊する。サイクロンフェニッ

クス

まだだ、バトルフェイズ新風鳥 月花でセットモンスターに

攻撃

NO - 34 新風鳥 月花 2700 VS 地底龍ガイアドラグーン

2400

優「地底龍ガイアドラグーンの効果発動、このカードは、裏側守備表示で攻撃された時このカードは、破壊されない」

翔太「ちい、命拾いしたな。まあ次のターン破壊すればいいこと、カードを2枚伏せてターンエンド」

優 ライフ3800 手札2枚

場 地獣フォース 地底龍ガイアドラグーン

翔太 ライフ4000 手札2枚

場 NO - 34 新風鳥 月花 伏せカード2枚

優「お前にもう次のターンは、こない俺のターンでこのデュエルは、終了だ」

第9話 - NZO (後書き)

段々と優のキャラが崩れてしまいました。

第10話 波乱（前書き）

今回もPSPからの投稿なので文が短いのでそこはご了承してください。

優「お前にもう次のターンは、こない俺のターンでこのテュエルは、終了だ」

翔太「お前は、何を言つているんだ俺のライフは、まだ4000あるんだぞ」

龍驥「そうだぞ優、しかもお前の手札は2枚しかないんだぞ」

優「大丈夫だ、俺のターンドロー、地獣チエンジヤーを召喚、さらに魔法カード発動、地底探索、効果によりデッキから地獣と名のついたモンスターの攻撃力を0にして特殊召喚する。現れろ 地獣チエンジヤーを守備表示で特殊召喚。さらに2体の地獣チエンジヤーの効果発動

効果によりこのカードのレベルを一つあげる。よつて2体の地獣チエンジヤーのレベルを6にする」

翔太「レベル6のモンスターが3体まさか」

優「そのまさかだよ。俺はレベル6の地獣フォースと地獣チエンジヤー2体でオーバーレイ2体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築

エクシーズ召喚、いでの、NO・73地底神 グランエンド

翔太「ついにおでましか NO・」

優「地底神 グランエンドの効果発動」

第11話 決着

優「地底神 グランエンドの効果発動
このカードのエクシーズ素材を、1つ取り除き相手フィールド
の全てのモンスターを裏側守備表示に変更する
ちなみに、このカードが存在する限り、セットカードを発動でき
ない」

翔太「なに！」

優「さらに、魔法力ード発動 挖削ドリル

効果により、自分フィールドのモンスター全てに貫通効果を与
える。

バトルフェイズ、NO・-73地底神 グランエンドでセット
モンスターに攻撃」

NO・-73地底神 グランエンド 2800（貫通）VS NO・

34新風鳥 月花 2400

翔太ライフ4000 3600

優「さらに地底龍ガイアドラグーンでダイレクトアタック」

翔太 3600VS地底龍ガイアドラグーン

翔太ライフ3600 1200

翔太「くそつ、だが俺のライフを全て削れたワケじゃない、次のタ
ーンで逆転してやるよ」

優「だから、いつただろ次の前回のターンはない、墓地罠カード発
動」

翔太「なにっ！墓地罠だと」

優「罠カード、第2陣を墓地から除外その効果により、自分フィー
ルドのモンスター1体を墓地に送り、

自分フィールドのモンスター1体は、このターン2回攻撃が出
来る。よって、地底龍ガイアドラグーンを墓地に送り

地底神 グランエンドを2回攻撃にする

翔太「なにっ！！！」

優「これで終わりで。いけ、NO。 - 73地底神 グランエンド、

ダイレクトアタック ゴッドクエイク」

翔太「うわああああ

翔太ライフ1200 0

優「ふう、勝つたかそれじゃあ、お前の - NO は頑いてくぞ」

翔太「まってくれ。俺はまだ消えたくない」

そう言い放つと翔太は、姿を消した。

龍驥「何だよ、この展開は、何で消えなきやならないんだよ」

優「そうゆう定めだからさ」

龍驥「そんなモン俺がブチ壊してやるよ

その時、俺のエクストラが光った。

龍驥「なんだよ、この光は

その光は、徐々に、広がつていき最後には、俺と優をつつみこんだ。

龍驥・優「うああああああああ

第1-2話 能力（前書き）

今回は、 -NO- を集めると、どうなるかについて書きたいと思います。

前回のあらすじ

優VS翔太で優が勝利したそれにより翔太の体は、消滅そのとき龍
驥のエクストラが光りその光に龍驥と優が包み込まれた。

龍驥「こ・・・ここは」

そこには、一面なにもない世界が広がっていた。

龍驥「ここは、どこだ。そう言えば優がいない。優―― 優――

――どこだ優」

叫んでみるもそこには、静寂しかない。

?「なんでお前がこんな場所に、まあこれが - NO・の定めか

龍驥「誰だ――」

後ろを振り返つてみるとそこにはいはづのないやつがいた。

龍驥「なつなつな何でお前がいるんだよ。」

そこにいたのは、俺の幼なじみである影山 源がいた。

源「落ち着け龍驥まずは、聞きたいことがある。お前は - NO・を
持つているのか」

龍驥「ああ持つてゐけどそれがどうしたんだ。てか何でお前にそい
るんだ」

源「そんなことは、あとだ。おまえは - NO・が何かわかつてい
るのか」

源の言葉に俺は、力チンときた。

龍驥「ああそんなこと知らねえよ。突然デュエル中に手に入れた
んだから」

源「そうか、それならお前は、知らないみたいだな - NO・をすべ
て集めると、どうなるのかを」

龍驥「なにが起きるんだよ」

第1-3話 空想世界（前書き）

今回は、龍騎たちがおどされた世界についてかいつて思っています。

第13話 空想世界

源「そうか、それならお前は、知らないみたいだな -NO- をすべ
て集めると、どうなるのか?」

龍驥「なにが起きるんだよ」

源「全ての -NO- を集めると願いが叶えられるんだ」

龍驥「はあ、ちょっとまでよ」

源「だから、願いが叶うんだよ」

龍驥「ちょっと整理をしてくれ」

俺は、父さんに -NO- を集めろといわれた。それがこんな理由つ
てどうこいつことだよ。

龍驥「よし、大丈夫だ。でも願いを叶えるってなんでそんなことな
んだよ」

源「俺が知ってるわけないだろ。まあどうあえずこの世界の説明も
ついでにするか。」

この世界は、-NO- と名のついたカードを持つものが来られる
世界だ」

龍驥「もう、ワケが分からないな」

源「大丈夫だ。俺も同じ意見だから。とりあえず向こうの街まで行
つてみるか」

龍驥「街??」

源「まあついてこい」

そういうわれるがままについていくとそこには、でかい街があつた。

龍驥「この世界は、なんでもありだな」

その街を見渡した見ると聞き覚えのある声が。

優「龍驥——」

龍驥「優!無事だったのか」

優「なんとかなってか何でお前が居るんだ源」

源「まあなりゆきと -NO- のせいかなあ」

優「へええ——」

源「そういう言い忘れてたことがあつたんだ。この世界でゾロ・勇士の戦闘で敗れても消滅は、しないんだ」

龍驥・優「えええええ——」

源「でもゾロ・を持たないものは、この世界から追放される。あと龍驥・優、俺と一緒に・ゾロ・を集めてくれ」

龍驥「なんかいきなりとうとつだな」

源「頼む、お前だから頼むんだよ」

優「でも、最後には、1人しかもてないんだぜ」

源「その時は、その時だ」

龍驥「まあいいけど。優もビビりせいいだろ」

優「まあ

源「よし、それじゃあ・ゾロ・を全て集めるぞ——」

龍驥・優「おおおお——」

こつして俺と優と源で・ゾロ・をあつめることになった。

?「ず、元のるなよ。クソガキども。貴様らが集められるわけない。集めるのは、俺たちだ。」

第14話 決闘開始

前回までありすじ

俺と優は、空想世界に飛ばされてそこで源と再開。そここの世界は、NO・を持つものしか入れない世界

龍驥「・・・・んん・・」

カーテンの隙間から太陽の光が入ってきた。

龍驥「もう朝か。俺は、いつの間に眠りについたんだ。まあ覚えてるわけないけどな。あんなことがあつたんだからなあ」

あんな」とと書つのは、空想世界の話である。

龍驥「とつあえずいつもの場所に行くか

――駅前広場――

優「龍驥、来たか」

龍驥「來たかつて何だよ」

優「いくぞあそこへ」

龍驥「行くぞつて何所へだよ?」

優「そんなもん決まつてんだろ。」

龍驥「まさか!..」

優「そのまさかだよ。ほらいくぞ」

龍驥「お・・お!」

そういうと優は、NO・を取り出した。

龍驥「何をやつてんだよ?」

優「ああ聞いてなかつたのか。コレが空想世界に行くゲートなんだよ」

龍驥「へえ――そつなんだ」

優「いいや」

龍驅「おつ」

そういうと俺と優は、光に包まれていった。

――空想世界――

龍驅「はあ――やつとつこた」

優「結構長かつたなあ」

そんな会話をしていると俺らを呼ぶ声がした。

源「龍驅――優――」

龍驅「でけえ声出すんじゃネエよ。はずかしい

源「すまない、でも早く集めネエと」

そういうと源は、俺のほうに必要以上によつてきた。

龍驅「分かつたから顔を近づけるのをやめろ」

源「ほんとかあででどうする」

そういうつているとある一人の少年が声をかけてきた。

？「あの龍驅さんですか？」

龍驅「ああ そうだけどきみは？」

優希「自分は、優希つて言います。よろしくお願ひします」

龍驅「おうようしきくな」

へえ――こんな時代に珍しいなこの子は。

優希「早速ですが自分とデュエルしていください。蓮さんを倒した実力が本物か自分で確かめていんです」

龍驅「おしやううぜ」

優「（心の声）蓮といつことば、なんかありそつだけ大丈夫だろ」

龍驅「いくぞ優希」

優希「いつでもどうぞ

（心の声）これで俺の元にNO・・16が手に入る

龍驅「なんか音がした気がするけど氣のせいが。いいや」

力チャ

龍驥・優希「決闘 デュエル」

このデュエルが今後の俺たちのデュエルを左右することになるとは、まだ誰も知らない

第14話 決闘開始（後書き）

デュエルが開始されました。

優希が何かを隠しているのは、明白ですよね。

ちなみに、影山 源の名前の読み方は、” かげやま

みなど” の

で” かげやま げん” では、ありません。

第15話 決闘3（前書き）

今回は、デュエルの前半戦です。

第15話 決闘3

龍驥・優希「決闘 デュエル」

龍驥「いくぜ、俺の先攻ドロー」

俺はモンスターをセット、カードを1枚伏せてターンエンド

「いきます、僕のターンドロー」

僕は指揮官ジャッジを特殊召喚。このカードは、相手フィールド上にモンスターが存在し自分フィールドにモンスターが存在しない時、特殊召喚できる。さらに奴隸スレイブを召喚。バトルフェイズ 指揮官ジャッジでセットモンスターを攻撃

龍驥「セットモンスターは、十二星座タウロスこのカードは破壊された時、デッキから十二星座と名のついたレベル4以下のモンスターを手札に加える。デッキから十二星座ジェミニを手札に加える」

優希「まだ、奴隸スレイブでダイレクトアタック」

奴隸スレイブ 4000 VS 龍驥

龍驥ライフ4000 3600

優希「カードを2枚伏せてターンエンド」

龍驥「エンドフェイズ時、農カードオープニング創世 自分のデッキからレベル2以下の星座と名のついたモンスターを特殊召喚する。よって現れよ、十二星座アクエリヌス」

龍驥ライフ3600 手札5

場 十二星座アクエルヌス

優希ライフ4000 手札2

場 指揮官ジャッジ 奴隸スレイブ 伏せカード2枚

龍驥「俺のターンドロー」

星座の使者シグニを召喚効果発動 デッキの上からカードを5枚墓地に送る。その後墓地の魔法カード1枚を手札に加える。よ

つて墓地からハンドグレイブサモンを手札に。そして魔法カードハンドグレイブサモン発動

手札と墓地からレベル4以下にモンスターを攻撃力を0にし
て特殊召喚。

源「すげえー〇だったフィールドが一気に4体のモンスターを並べ
た」

前馬 さらば十一星座アグエリエスの效果「スリル」の效果モニスター1体を1ターンに一度手札に戻す。よって指揮官ジャッジには、退場してもらう」

「エールドの光属性モンスターのレベルを1～5までに変交できる。効果のよしピスケスとサジタリウスのレベルを4にする」

優希「来るかNO. -16.」

龍馬 僕は レヘルムとが た十二星座ヒラクスとナシタリュウスを
オーバーレイ 2体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築
エクシーズ召喚 現れるNO・16 時間龍 タイムオーバ
ードラゴン」

優希「くっくく、ついに来たかNO. -16俺は、そのカードをもらつたためにお前とデュエルしたんだよ。

ちなみにこの「テコエルの敗者は、消滅する」

龍驥「なんだつてそんなバカな」

優希「ほんとなんだよ。我々の力を使えばこの世界でも消滅させる
ことは、たやすい」

龍驥「そんなまた、人が消えるのかよ」

優希「安心しろ消えるのは、お前だからな。ちなみに・ゾ・をい
くら持つてようと意味は、この世界ではないなぜならこの世界の・
ゾ・を賭ける」コエルは、全ての・ゾ・をかけているからなあ、
まあせいぜい全ての力を出し切るといい」

龍驥「また、この命がけのゲームかよ。もつこんなのつざりなん
だよ」

その時、時間龍タイムオーバードラゴンのカードが光った。

？「貴様にこの力が使いこなせるのか」

龍驥「こ・・ここは」

そこには、謎の石造があつた。

龍驥「ここは、何所だよ」

第15話 決闘3（後書き）

龍驤がたどり着いた場所は一体何なんでしょう。
なんか展開がゼアルにちょっと似てますがそこはとにかく、考
え付かなかつたんです許してください。

第16話 新たな力

龍驥「ここは何処だよ」

そこには、謎の石像が三つとその上には赤、青、黄の玉がおいてあつた。

？「また貴様かまあいい」

龍驥「だれだ!!!!」

そこには誰もいなかつた。だがその声は確かにした。

？「貴様は何を欲する」

龍驥「何の話だ!!!!」

？「何を欲する。力が欲しければ赤を、戦術がほしければ青を、光が欲しければ黄を、さあ、どれかを選ぶがよい」

龍驥「何の話をしているんだ」

？「さあ、選べそすれば道は開ける」

龍驥「道は開けるかあ・・・・・・・・俺が欲しいのは、誰も傷つけず、仲間を守れるそんな力だ」

？「貴様、面白いやつだ、いいだろ。その力、我が与えてやるつ」

龍驥「なんだよ。うあああ

また、俺は光に包み込まれた。

？「龍驥！！龍驥！！」

なんだ、俺を呼ぶ声がする。

龍驥「な・・・・なんだ俺を呼ぶの誰だ」

？「龍驥！！！！」

はつ！俺はやつと意識が戻つた。

優「龍驥やつと意識が戻つたか」

龍驥「俺は何をしてたんだ」

優「お前は、なんかNO・召喚したと、思つたら急に動かなくなつたんだ」

優希「さあ早くターンを進めろ」「
龍驥」「おおう、バトルフェイズ?」「
その時、俺は直感で何かを感じた。」

第16話 新たな力（後書き）

龍驤は何かを手に入れたようです。

キャラ紹介③（前書き）

今回は、影山 源と神事 優希のキャラ設定を書きたいと思います。

キャラ紹介3

キャラ紹介

影山 源 かげやま みなと 年齢15

デッキ：ダークネスデッキ

龍驕と優とは幼なじみで10歳の時に転校してしまい龍驕たちとは、離ればなれになる。龍驕たちとは、空想世界で再会する。

使用するデッキは、闇を主体としたデッキでそのモンスターのほとんどが闇のカードである。デュエルの実力は、龍驕と同じくらいである。

使用する・NO・はNO・・89大魔王 アモン帝王

神事 優希 しんじ ゆうき 年齢13

デッキ：ジャッジデッキ

空想世界であつた謎の少年。翔太と蓮とは、何らかの関係があるようだがその関係は不明である。

使用するデッキは裁判を元ネタとしたデッキでレベル5のモンスターを特殊召喚する事にとつかしたデッキである。

使用する・NO・はNO・・13ジャッジメントルーラー

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2183z/>

遊戯王 X D E

2011年12月16日19時50分発行